

日本海

# ラパスの便り

鳥取大学海外実践教育カリキュラム

～1～

治大学 (UABCs) の実践的教育を通して、近年、大学教育において教養教育は重要視され、国際人としてのコミュニケーション能力が求められる。その一環として、鳥取大学は英語の講義と多彩な海外フィールドワークなど

「人間力」を掲げている。人間力の定義、実では、異なった習俗や慣習と積極的にかかわることで、異文化を体験と国際的な人格を身に付ける。

また、日常生活場面では、異なった習俗や慣習と積極的にかかわることで、異文化を体験と国際的な人格を身に付ける。

「人間力」を掲げている。人間力の定義、実では、異なった習俗や慣習と積極的にかかわることで、異文化を体験と国際的な人格を身に付ける。

今月から鳥取大学で二十人の学生をメキシコ・ラパスに約三カ月派遣する「メキシコ海外実践教育カリキュラム」が始まった。国際的な教育実践を狙いにスタートして三年目となる。

その内容や多彩なカリキュラムに挑む学生の姿などを現地から七回にわたって伝える。

鳥取大学は二十人の学生をメキシコ (ラパス) に九月から約三カ月派遣し、「メキシコ

海外実践教育カリキュラム」の一環として二〇〇六年度から始まり、今年で三回目となる。

学生は、鳥取大学の海外教育研究拠点であるメキシコ北西部生物学研究センター (CIBNOR) や南バハカリフォルニア州立



ラパスの地は乾燥地として知られ、学生はフィールドワークなどを通して日本と異なる圧倒的な自然環境や人間性豊かな社会環境に

三カ月後、二十人の学生たちは国際人としてどのように成長し、また人間力を高めた実感できるだろうか。

(鳥取大学准教授・永松利文)

## 国際人として成長目指す

(掲載は毎月第三・四週月曜を予定)